

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年9月27日(水) 10:00~12:00
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
- 4 参加者 委員 長倉 守 岐阜大学大学院教育学研究科准教授
奥村 篤 各務原市立中央中学校長
小川 陽子 新生こどもえん園長
古田 希雄 各務原市 市長公室 まちづくり推進課 課長
堀 善子 各務原市 市民生活部 税務課 主幹兼税制係長
上河原朋子 本校PTA副会長

学校側 細井 恒樹 校長
堀 卓也 教頭
武藤小百合 事務長
橋本 純 生徒指導主事
水野 里美 進路指導主事
片桐 豊 渉外部長
北原 剛 研修主事

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 令和5年度「生徒・保護者等対象学校評価アンケート」結果並びにオーストラリア・ケンモア高等学校訪問研修報告、及び現状を踏まえた本校の重点的課題について

(意見・質問)

① ふるさと教育について

意見1：ふるさと教育については大変興味深い。よいものは生徒全員が経験できることが望ましい。ふるさと教育については希望者のみ参加か。

⇒総合的な探究の時間で生徒全員が学ぶ。成果はクラス内で発表し、その中から優れた発表は、学年全体の集まる場での発表を行う。また、1年生から総合的な探究の時間の学習活動を行うが、その中で2年生の優れた発表を見る時間を設けている。

意見2：ふるさと教育の内容がすばらしい。新聞でも取り上げられていた。実際に地域の人々や地元の企業と高校生が触れ合う機会を作ることで、地域の人々や地元の企業に、各務原高校の生徒の良さを認識していただけるのではないかと。あそこの高校生はいいねという話になれば、その後の進路にもつながってくるのではないかと。

意見 3 : 高校は中学校に比べて広いところから生徒が集まってくる。ふるさと教育という話があったが、各務原の地元の文化や状況について慣れ親しんでいる生徒と、外部から来た各務原の文化とはあまり縁のない生徒の意識の差があり、難しいのではないかと。

⇒ふるさと教育には4年前から取り組んでいる。本校の生徒の場合、約7割が市内在住の生徒であるという状況もあるかもしれないが、全体としてふるさと教育には前向きに取り組んでいる。テーマの中には各務原市限定ではない課題もあるので、近隣の市町からの生徒でも違和感は少ない。

② 交通安全について

意見 4 : 交通安全についての話があったが、現在は自転車保険が義務化され、ヘルメット着用も努力義務化された。現時点での自転車通学の生徒の割合とヘルメットの着用率はどの程度か。

⇒通学者の約8割が自転車で通学している。保険の加入義務化は合格者説明会等でも周知している。ヘルメットは努力義務ということもあり、着用している人数は10名に満たないのが現状である。

③ ICT機器の活用について

意見 5 : タブレット端末について、中学校では生徒はiPadを用いている。入力もフリック入力である。本日授業を見せていただいたが、高等学校のタブレット端末は別の機種であり、キーボード入力であった。不慣れな生徒をどのように指導していくのか。

⇒1年生で全員が情報の授業を受講する。そこで基本的な使い方を学んでいく。生徒の応用力は高いので、すぐにキーボード入力にも慣れていく。授業の中で使っていく中で習熟していく。社会ではキーボード入力もまだ必要とされる場合がある。

意見 6 : タブレット端末の使用についての問題提起があった。使用していれば破損や故障は避けられないが、修理費も高額であり、持ち帰り指導に伴うリスクもあることが分かった。タブレット端末は学校専用または自宅専用ということにして、行き帰りの持ち運びをなくせば破損は防げるのではないかと。

⇒GIGAスクール構想もあって、生徒全員に端末を貸与している。使用については校内にとどまらず、自宅でも使用することを目的としており、持ち帰りを推奨している。タブレットケースや保護バッグを併用し、破損を防ぐ努力をしている。使用している生徒の意識向上をさらに進めたい。また、すべてにおいてタブレット端末を利用すればよいというわけではないことは職員間でも話題になっている。きれいにまとめられた図をタブレットで見て「分かった気」になっていると、実はよくわかっていないということも現実にある。ノート作りの大切さも話題となっている。

意見 7 : 図書館の有効活用として、図書館のパソコンを多く配備し、図書館で情報収集を行うことができるようにすればよいのではないかと。

⇒GIGAスクール構想では、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することとなっている。現在パソコン室にあるPCも更新が近づいているが、県で新たに多くのPCを導入整備するという計画は聞いていない。

④ 生徒指導について

意見 8 : いじめについて、学校の指導に対する生徒からの評価が高く、職員の努力が生徒にも伝わっている。ただ、少数ではあるが否定的な意見もあるので、気を付けてほしい。

⇒人間関係のトラブルが起きない学校はないと認識している。本校でも人間関係のトラブルは起きており、「いじめ」の可能性が感じられるものについては連携して調査し対応している。今後も「いじめ」は起きるものという認識で、職員が連携して対応していく。

意見 9 : 生徒指導部の分析の中で、SNS上のトラブルという話が出てきたが、成人年齢が18歳になったことに伴う若年層のトラブルが増加している。市としても危機感を抱き、啓発活動を行おうとしている。必要であれば、ぜひ市役所へも連絡をいただきたい。

⑤ 部活動について

意見 10 : 部活動の加入率の低下ということが話題にあったが、その理由として考えられることは何か。

⇒様々な理由が考えられるが、例えば校外のクラブチームに所属しているが、学校の部活動には所属していないという生徒もおり、選択の多様化ということも、要因の一つと考えられる。

⑥ ケンモア高校訪問研修について

意見 11 : ケンモア高校の研修で生徒が変わったという話は大変興味深かった。生徒が色々な経験の中で成長しているのはよいことである。

意見 12 : ケンモア高校研修でオーストラリアでのホームステイを経験し、いろいろな活動に参加する中で生徒の意欲や自己肯定感が高まっている。コロナ禍でできなかった交流ができるようになったことは素晴らしいことである。

⑦ 教育相談について

意見 13 : 教育相談部関連の項目「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。」について、肯定的な回答が多いのはよいことである。面談は信頼関係がないと成り立たない。また、発達障がいを抱えている生徒の話があったが、通級指導はどの程度行っているのか、また、そこに参加する生徒はどのように決まっているのか。

⇒通級指導については、現時点では開催していない。前提として、本人・保護者からの受講希望が必要である。学校からは、紹介はできるが、通級指導を受けなさいという指導はできない。実際に、周囲にいる人の感情を読み取ることがとても苦手な生徒もいる。また、整理整頓ができない、情報を整理できないなどの課題を抱えている生徒もいる。しかし、通級指導は本人や保護者が利用を希望することが必要である。

意見 14 : 発達障がいについては、幼い子どもでも見られる。成長の過程で自然とよくなるというわけではないことが、今回の学校の説明からも分かった。発達障がいの生徒は、全体の中でどの程度いるのか。

⇒発達障がいであるという明確な診断があり保護者からの申し出がある場合や、個別の支援計画がある場合等ははっきりしているが、そうではない場合もあり、明確に何人いるということはお答えできない。

⑧ 授業及び指導全般について

意見 15：クラスの様子を参観したが、全体的に前向きに取り組んでいた。アンケート結果の気になる点の一つとして体罰のことが上がっていたが、アンケート結果を見ると「体罰はない」という項目について否定的な意見の生徒もいる。現状はどのようなか。

⇒本校としてもこの結果は重く受け止めている。職員へも注意喚起をしてきていることで、これまでのところ、職員が生徒に対して手を上げた等のことは報告されていない。一方で、アンケートで「当てはまらない」という回答が出てきた理由を考えると、「声掛けの仕方と受け止め方」という問題があるのではないかと考えている。声掛けの仕方については、言われた方の受け止め方の個人差も大きく、難しいところもあるが、人格を否定した物言いにならないよう、これまでも職員へ注意喚起をしてきた。今後も注意喚起を行っていく。

⑨ 学校全体としてのあり方について

意見 16：入学者の減少という問題があるという話だが、保護者や生徒の意向と学校の向かっている方向とのズレがないか検証していくことが大切である。また、学校としての取り組みをさらにアピールすることで、入学者の増加につなげられるのではないかと。各務原高校に入学してよかったという生徒の割合を増加させるためのカギをさらに探究してほしい。

意見 17：人権と多様性が今後の社会のキーワードになる。校則の見直しや職員の意識の変革も必要な時期に来ている。

意見 18：スクールポリシーに「開拓者精神」という言葉があるが、特別活動部のまとめの「評価できる点」の中に、「学校全体に柔軟性があり、変化を受け入れようとチャレンジすることができる集団である。」とあるのはよいことである。

意見 19：全国の公立高校が難しい状況に置かれている。少子化ということもあるが、広域通信制の高等学校に魅力を感じて進学する生徒の増加や、私立高等学校の学費面の補助などの状況があり、大変苦勞していると思う。各務原高等学校の先生方もギリギリのところでごんばっている。一丸となって改革、改善を進めてほしい。

意見 20：知・徳・体ということが昔から言われてきているが、現代に必要とされる知・徳・体は、過去のものからは進化している。求められる能力の進化に対応する上でカギとなるのが、各務原高等学校のスクールポリシーにある「開拓者精神」である。例えば「知」も、単に暗記して得るものということではなく、課題解決のために獲得し、使っていくための「知」であることが求められる。まさに「開拓者精神」を前提とする「知」である。ケンモア高校での経験を自分たちでまとめようとする生徒の話も「開拓者精神」に通じる。そこには「創造の芽」「挑戦の芽」「協同の芽」がある。今後の学校アンケートでは、学校設定項目に「開拓者精神」、「創造・挑戦・協同」を意識したものをいれるとよい。

別紙様式 3

意見 21 : カリキュラムポリシーも校訓の実現に向けて再度見直していくことが大切。また、高校説明会等でもアドミッションポリシーを中学生に伝えていくなど、校訓やスクールポリシーを有効に活用してほしい。